

これまでに7期生までの卒業生を輩出しているKIS。多くの卒業生が各界や大学で活躍されています。そんな中から、ごくわずかですが、卒業生の今のお二人の現在の様子を紹介します。



第3期卒業生 宋順花さん

関西大学 政策創造学部 卒業

就職先：日本IBMグループ

ITエンジニアを目指す

原点にKISがあった

私は今年大学を卒業して社会人となり、現在はITエンジニアになるための研修を受けながら仕事を学んでいるところです。大学では国際関係学を専攻し、今まで情報やITに関する勉強をしたこともなかった自分がこの進路を選んだのには、大きく二つ理由がありました。

一つ目は「プロフェッショナルとして世の中に貢献できる仕事がしたい。そのため多くの人の生活を支えるITを学びたい」という想い、二つ目は「グローバルカンパニーで働きたい」という想いからでした。

入社をして改めて感じることは、「勉強は一生し続けるものだな」ということです。世界を舞台にビジネスを開拓するIBMグループの先輩社員の皆さん、日々勉強をしておられます。特に、技術の発展が速いIT業界では、最新の技術を常に勉強せねばなりません。自身も入社をしてからは、IBMのグローバルカンパニーとしての理念や倫理観、

KISで学んだことをふと思いついたりもします。私は、KISで過ごした日々が、今の私の思考のベースを作り、この進路へと導いたことは間違いないと思っています。自分と違うバックグラウンドや価値観を持つ人の議論の進め方、あらゆる分野への関心と視野の広げ方など、多くのこと学びました。また、大学生活や社会人になると、「勉強のやり方」を教えてくれる人はなかなかいません。中学や高校のときに、自分なりに方法を見つけていくことが後々役に立ってきます。



第5期生 朴苑善さん
大阪大学 外国語学部 在学中

何でタイ語？

タイ語を使う機会なんてある？



KISにいる間は、素晴らしい先生方や仲間から、それらを吸収できる絶好の機会だったと思っています。定期試験や大学受験のようなりミットのある勉強だけでなく、何かを観に行くこと、つくること、体を動かすことなど、それも全て勉強です。そして何よりも、KISで出会う同期、先輩、後輩は今後も末長く続く大切な縁です。私は、何年経ってもKISと離れている感じがしないことが本当に不思議です。それほど、良い縁が「円」をつくっているのだと思います。

私自身もまだまだ始まつたばかりの社会人生活です。今後、早く現場に立って貢献できる日を目指していろいろなことに挑戦しながら頑張りたいと思っています。



初めて会う人には必ずされるこの質問ですが、大学に入学して間もない頃は、この質問に対して自分の意見をはつきり述べることができませんでした。どうして大阪大学でなければならなかつたのか、どうして外国語学部でなければならなかつたのか、どうしてタイ語でなければならなかつたのかについて、正直なところ今でもよく分かりません。ですが、私が今このようにして大阪大学外国語学部でタイ語の勉強を続けることができる理由は自信をもつ



最初はコミュニケーションの手段としてタイ語を上手く使いこなせるようになりたいと思っていただけでしたが、彼らと親しくなるにつれて言語そのものはもちろん、彼らの生まれ育つた国であるタイについて、つまりはタイという国の文化や社会、歴史についても知りたいと思うようになりました。

KISに在学している頃から思っていたいましたが、「語学力を磨く決め

て言うことができます。それは、「好き」だからです。

自分でも何だかよく分からないままに始めたこの勉強に、ここまで夢中になるとは思ってもいませんでした。タイ人の友達が出来たこと、これが最も大きな要因ではないでしょうか。

最初はコミュニケーションの手段としてタイ語を上手く使いこなせるようになりたいと思っていただけでしたが、彼らと親しくなるにつれて言語そのものはもちろん、彼らの生まれ育つた国であるタイについて、つまりはタイという国の文化や社会、歴史についても知りたいと思うようになりました。

手はやっぱり人が！」と改めて実感することができます。KISでの6年間で、国籍や性別、年齢などを超えて、多様な人々と対話し、自分について話をする機会が多かつたからでしょう。

後輩たち！大学は広いです。講義室も体育館も運動場も。KISの中・高でできなかつたことをここではいかでもできます。しかしKISでしかできないこともたくさんあるということを忘れないでください。「今」を大切に、自分色の悔いのない学園生活を送つてください。

私は、今年の夏から約一年間タイに留学予定です。初めは戸惑うことも多いかと思いますが、新しい環境の中で様々な人とタイ語出会いながら自分の好きなものをたくさん見つける、そんな一年にしたいと思つています。



越境人 特集3 10年目のKISに寄せて

辛淑玉さん
人材育成コンサルタント、
フリーライター、政治活動家、のりこえねっと共同代表
表、TRAI (Trans-pacific Research and Action Institute for the hisabetsu-nikkei) 東京代表。シユーレ大学アドバイザー。

藤井幸之助さん
同志社大学嘱託講師、
コリアン・マイノリティ研究会世話人、猪飼野(いかいの)セッパラム文庫主宰

勉強したほうがいいと思うよ

辛 淑 玉

英語をやつておけばよかった。
あの、と思ったのは、イギリス国籍の男性と恋愛したとき。

「I miss you」という手紙が届き、これを私は「あなたにしくじった」と訳した。もちろん返事は書いていない。振られたのだと思って、何度も海を見ながらため息をついた。

これが「会えなくて寂しい」という意味だと知ったのは、ずっと後である。I love youが「愛してる」なら、I miss youは、「しくじった」以外に訳しようがなかったのだ。

マジで、勉強はしておくものだと思った。

コリア国際学園（KIS）は、来年で開校10周年を迎えます。これまで本校には、たくさんの方々に携わって頂きました。その中でも本校の入学式にも参加して頂いた、人材育成コンサルタントの辛淑玉さんからポエム調で、コリアン・マイノリティ研究会の藤井幸之助さんからは、セッパラム文庫についてのお便りが届きました。

小さな図書室から 広い世界につながろう！

—猪飼野セッパラム文庫の可能性—

藤井幸之助

1軒丸ごと朝鮮韓国在日の図書資料がいっぱい、みんなのまちの人権図書館・チラシ図書館！

キーワード：猪飼野・在日朝鮮人・在外朝鮮人・朝鮮・チヨゴリ・ジェンダー・日本軍「慰安婦」・ヘイトスピーチ・東アジア・平和・人権・マイノリティ・展示・チラシ

英語好きな少年が自分なりの

脱「欧」入「亞」

高校時代、大学は中国文学か中国

哲学を学べるところに行こうと思つていた。ぼくなりの脱亞入欧ならぬ、脱「歐」入「亞」だつた。中学・高校と人並みに英語好きだったぼくは、高2あたりから中国に目を向けて始めた。英語ができるないと受験を乗り切れないとき生徒たちを「脅迫」する英語科の教師たちへの反発もあつた。

直接のきっかけとなつたのはNHK教育テレビ市民大学講座「杜詩を読む」（講師・吉川幸次郎）だつた。漢文の読み下し文で杜甫を読んだ後、幸次郎さん自身が漢語（中国語）で読んで見せたのだ。

決してうまいとは言えない発音

第一、恋愛の対象者が増える。
これ、マジ大切。

第二に、不愉快なことをされたら「NO」と言える。そして、ざけんなよとケンカができる。

いいなあ。いいなあ。コリア国際学園、行きたかつたなあ。

コリア国際学園は、日本語、韓国語、英語の三ヵ国語で学ぶ。いい

い石をどこさなければならなかつたときだ。「えーと、なんとかの定理とか、原理とか、あつたよなあ…」と。そこで溜息をついても、もう遅かつた。

こんなふうに書き出すと、キリがない。

いつたん社会に出てしまうと、集中して勉強だけできる時間を作ることとは不可能に近くなる。学生時代つて失敗ばかりだけど、学ぼうと思えば学べる環境なんだよね。

コリア国際学園は、日本語、韓国

語、英語の三ヵ国語で学ぶ。いい

第一、恋愛の対象者が増える。

これ、マジ大切。

高校時代つて失敗ばかりだけど、学ぼうと思えば学べる環境なんだよね。

いいなあ。いいなあ。コリア国際学園、行きたかつたなあ。

第一、恋愛の対象者が増える。



若い人たちに開かれた文庫を—
民族との出会い、
人と人との出会いの場づくり
50歳を過ぎて、まがりなりにも図書館を運営するようになつて、人が集まつて来てくれることがうれしい。現在は月1回、コリアン・マイノリティ研究会月例研究会（2017年6月で162回目を迎えた）と「映像で見る朝鮮韓国在日上映会」をおこなつてている。「韓国手話講座」も開講している（随時、受講生募集中）。植民地時代に朝鮮に伝わった日本手話を基に作られた経緯があり、歴史的

コリア国際学園のみなさんとも
書館つながりで何かできないか、考
えていきたい。本が好きな人・好きで
もない人、何でもいいからやつてみ
たいという人・何をしていいかわから
ない人、パソコンが得意な人・得意で
ない人、人の役に立ちたい人・役に立
ちたいとは思っていない人……一度
文庫に遊びに来ないか？

ちまたでは無知・無関心からくるヘ
イトスピーチがやまない。いまこそ正
確な知識を若い人たちに伝え、考える
場を共有していく必要がある。「猪飼
野セッパラム文庫」のささやかな活動
がその一助になればうれしい。

猪飼野セッパラム文庫 <http://sepparam-bunko.jimdo.com/>

■ 543-0032 大阪市天王寺区細工谷2-14-8 masipon@nifty.com ☎090-9882-1663

■ 開館:土曜日13:00～17:00 入館無料 来館前にご連絡いただければありがとうございます。これ以外のご利用も対応可。

- **蔵書案内**（編著者名を50音順で配架）
所蔵資料（日本語・朝鮮語・漢語）：書籍・雑誌・チラシ・パンフレット・テープ・CD・DVD・ビデオ（未整理のもの多数）・民族団体・民族学校・運動団体関連資料・行政外国人施策関連資料・民族まつり/マダン関連資料・モノ
 - 調査相談（レファレンス）サービス：朝鮮韓国在日についての本や資料の相談。
 - 関連論文・卒業論文・修士論文・博士論文の収集。
 - チラシ・パンフレットの収集・データベース化。
 - 「猪飼野アクセスマップ」（『季刊Sai』vol.3,1992年掲載）の改訂作業。
 - 各種講座・催しの開催：コリアン・マイノリティ研究会・「映像で見る朝鮮韓国在日」上映会・朝鮮語=韓国語講座・手話教室・猪飼野セミナー・映画上映会・ワークショップ・フィールドトリップ・講師派遣・会議貸室・宿泊可。
 - 関連情報「朝鮮韓国在日・これから」の催し 毎月週木2回メール配信。
 - 書籍委託販売・古本販売・グッズ販売。

【会員登録】

年会費:個人会員6000円(ひと月ワンコイン!)／1口会員1000円(何口でも)／維持会員1万円／高・大生会員無料
特典:(貸出:会員限定。何冊でも可能な冊数・2週間／ニュース発行／関連事業参加費の割引／「朝鮮韓国在日・これから」の儀式上級配信)

＜郵便振替＞猪飼野セッパラム文庫 00960-5-235693
＜ゆうちょ銀行＞〇九九(ゼロキュー) 店(099) 当座0235693

書館！」。開館以来、いろんな方々から図書資料の寄贈もたくさん受けるようになつた。

蔵書数は1万数千冊（うち、朝鮮韓国在日関係は数千冊）。本の数では大ききな図書館には絶対負ける。小さな図書館だからこそできることを探つてゐる。1980年代に学生時代を過ごし、その頃から集めていた朝鮮韓国在日関連のチラシ・パンフレット類が相当な数になつてきてゐる。現在これらを鋭意整理中である。将来的にはデータベース化したいと考えてゐる。また、ミニミュージアム的機能も持たせていきたい。

学中国文学科・大阪大学中国哲学科・
神戸大学中国文学科）は偏差値が高
くてとても行けそうにないことがわ
かった。それであれこれ調べている
と大阪外国语大学に朝鮮語学科とい
う手ごろなのがわかつた。
しかも、豊中に住んでいたぼくには
箕面キャンパスはありがたかつた。
外国语学部ならいろいろんな勉強もでき
るだろうと、自分なりに決心をした。
そんなある日、朝鮮語学科を受け
ようかと思うと伝えたところ、母は
血相を変えて驚いた。「あんたは中国
やる言うてたのに、何でよりによつ
て朝鮮や？」

望校をしほらなければならない。ずっと様子を見ていた母は息子は間違いない中国専攻に行くと思つていた。しかし、実際に受験情報誌を調べてみると、行きたい学科（京都大

しかし ほくの気持ちはもう変わらなかつた。新聞でも時々、学科主任の塚本勲さんは『ユンボギの日記』というのを訳され、中心になつて朝鮮語大辞典を作つているとか、朝鮮語研究室の活動（鶴橋で「猪飼野朝鮮図書資料室」を運営され、朝鮮語講座が開かれていた）が紹介されたりして、象牙の塔にこもらない感

(1986年に角川書店から出版された) や「猪飼野朝鮮図書資料室」の
お手伝いもするようになつていて。これもまた刺激的なことであつた。
資料室には在日朝鮮人も日本人もいろんな方々がお越しになつて、お話を
される。何を聞いてもおもしろかった。

猪飼野に朝鮮韓國

在日関連の図書館を

「猪飼野」は古代より朝鮮半島から
の渡来人も多く、戦前戦後、東成区・
生野区にまたがった地域の地名で、
在日朝鮮人の集住地域として知られ
てきた。特に済州島出身者が多い。
しかし、1973年に町名改正で、
地名としてはなくなつた。

また、1980代から90年代にか
けてこの付近には「猪飼野朝鮮図書資
料室」（塚本勲さん）・「学林図書室」
（朴一さん・金早雪さん・尹明憲さ

専攻の方は朝鮮半島本体ではなく、日本に暮らすようになった朝鮮人の教育や文化に興味を持つようになつた。学部では解放直後の朝鮮人学校の朝鮮語教科書について卒業論文を書き、修士課程では大阪市立今里中学校という公立朝鮮人学校の歴史について修士論文を書いた。

に参加していたこともあつて、この「猪飼野」に隣接した天王寺区細谷で、民家を利用して、誰もが利用できる図書館をと、2015年5月に開館した。名付けて「猪飼野セツパラム文庫」(setDateBarang)とは朝鮮語で「東風／こち」を意味し、「新しい風」の意味ももたせている)。



最優秀賞受賞者インタビュー

高等部1年 堀愛果さん

Q どうして3言語スピーチ大会に出ようと思いましたか？

A 最初は自分の韓国語に自信がありませんでした。

何故なら、お母さんもお父さんも日本人で、小学校も日本の公立学校に通っていた私は、韓国語をまったく話せないのでKISに入学したからです。そして中学3年生になって、担任の先生から「3言語スピーチ大会に出てみない？」と勧められて、私は出ることになりました。テーマは「頑張って得たもの」。私はこのテーマを聞いて、KISに3年間通って頑張って得たものについてスピーチしました。

Q KISに通って大変だったことはなんですか？

A 大変だったことはコリア語の発音でした。コリア語には日本語にはない発音がたくさんあります。

私が特に大変だったと思ったことは「받침（パッチム）」です。私は初めて「받침（パッチム）」を見た時、「받침（パッチム）」の多さと発音の難しさに驚きました。

Q KISに通って良かったことはなんですか？

A 1つ目は韓国語の読み、書き、聞き取り、話すことが出来るようになったことです。

KISで韓国語を学んだおかげで、韓国語能力定試験を受けて2級に合格することができました。

2つ目は友達です。中2の時に韓国研修に行って、開雲中学校でたくさんの人と友達になれました。

Q どうして頑張りましたか？

A 先生、友達、家族など沢山の人の応援と支えがあったからです。

3言語スピーチ大会に向けての練習が始まると、担任の先生は毎日練習に付き合ってくれました。友達は、放課後に私のスピーチを聞いて、色々なアドバイスをしてくれました。

Q 得られたものはなんですか？

A 3言語スピーチ大会に出て私は自信が持てるようになって、スピーチ大会が終わってからもっと頑張ろうと思うようになりました。そして、私はもっと違う大会に出てみたいと思うきっかけになりました。

Q 3言語スピーチ大会に出てみてどうでしたか？

A 3言語スピーチ大会に出てみて、努力したら出来ないことはないと思う機会になりました。

練習は本当にしんどかったけど、3言語スピーチ大会に出られてよかったです。これからもっとコリア語を勉強して、韓国語能力試験最高レベルの6級に合格し、いつかは韓国に留学したいと思っています。



2016年11月12日、第4回「2言語・3言語スピーチ大会」が、関西学院千里国際中等部・高等部にて行われました。

第4回 2言語・3言語 スピーチ大会

2013年度にスタートし、
第4回大会へ

2016年11月12日、第4回「2言語・3言語スピーチ大会」が、関西学院千里国際中等部・高等部にて行われました。

阪府箕面市）では、国家・民族の境界を越え、普遍的に思考しながら行動する眞の国際人を養成するという両校の教育理念に基づく実践の一環として、毎年「2言語・3言語スピーチ大会」を実施しています。

今回のテーマは、中等部「一生懸命やった結果得られたもの」、高等部「情報化社会ーその代わりに失ってしまったもの」で、11名が参加しました。

司会の一人は、去年の大会で科学的な視点から環境問題について意見を述べた高等部2年の吳相珍君で、3言語で大会の進行を担ってくれました。

KIS中等部からは、自分の経験

審査の結果、KIS中等部に入学し、コリア語の習得の難しさと成長過程について話してくれた3年生の堀愛果さんの「KISに行きたい」が最優秀賞を、2年生の安原海咲さんが優秀賞を受賞しました。

3言語で情報化社会に対する自分の考えをしつかり伝える

高等部では、情報化社会に対する自分の考えを3言語で伝えてくれました。難しいテーマではありました。出場者は身近な例を挙げながら情報化社会に対する私たちの姿勢や意識の重要性について述べ、情報化社会での私たちの考え方や行動の大切さについて考えさせてくれました。

最優秀賞は、SOISの2年生のルイス・ミヤさんが、優秀賞はコリ

一雅さん、女優が演技をしているようなスピーチをしてくれた2年生の安原海咲さん、大きな声とジェスチャーで会場を注目させた3年生の堀愛果さんが出場しました。3人の見事なスピーチは、練習をしつかりしてきた結果で、審査員はもちろん、観客に大きな感動を与えてくれました。

審査の結果、KIS中等部に入学し、コリア語の習得の難しさと成長過程について話してくれた3年生の堀愛果さんの「KISに行きたい」が最優秀賞を、2年生の安原海咲さんが優秀賞を受賞しました。

ア語で見事にスピーチしたKISの2年生の梅谷多恵さんが受賞しました。KISの2年生の申秀奈さんと1年生の沈鉉宇さんは奨励賞を受賞し、来年もう一度出たいという意欲を見せてされました。

今回の大会の参加者は、この経験を通してきっと多くの人々に自分の考えをしつかり発信できる人になつていくことでしょう。

KISからの出場者とテーマ

学年	名前	テーマ
中等部1年	金一雅	諦めずに最後まで
中等部2年	安原海咲	No Pain, No Gain
中等部3年	堀愛果	お母さん、KISに行きたい
高等部2年	沈炫宇	私たちにかかっている未来
高等部2年	梅谷多恵	「情報化社会」での生活で考え直すこと
高等部2年	申秀奈	情報化社会の主体

※学年は2016年度のもの

•フィジー留学を終えて•
フィジーであつた
出来事から学んだこと
高等部2年 北原実樹

フィジーに到着したのは2016年の1月13日。空港に着いた瞬間、周りはすべて英語で、不思議な感覚を味わったことを今でも覚えています。”ここで一年間やっていくんだ！”と、期待に胸を膨らませていました。

日本では味わうこのできない、夏の大きな青空と自然豊かさに圧倒される場所にある学校で、初めて私のホストマザーになるインド系フィジー人の先生に会いました。

そのまま先生の自宅へ行き、用意してもらっていた自分の部屋で、疲れていたのか寝てしまいました。起きた時に私の両親の顔が浮かびましたが、寂しい、会いたいという感情は出てこなかったんです。

そこで初めて、意外と自分は強いんだ。と気づくことができました。

学校が始まって慣れてきたころに、フィジーで最も巨大なサイクロンが来て町全体が洪水になり、停電になりました。一ヶ月の間電気が通らず、普段の当たり前の生活がどれだけありがたいかを学べた上に、少し精神的に強くなった気がしました。

その後、事情があって先生の実家でホームステイするようになりました。ナナ(おじいちゃん)、ナニ(おばあちゃん)とも暮らすようになり、私を本当の孫の様に可愛がってくれて、愛されていることが実感でき、いい人に出会えたなと思いました。

イースター(キリスト教)やディワリ(ヒンドゥー教)などの宗教のお祭り事や日常生活を通じて、宗教やフィジー人・インド人の人種の違いによる文化や、価値観の違いを学ぶことができました。

学校生活では自分が努力しなかったため、あまり楽しく過ごせたと感じることはできませんでしたが、フィジーの人の温かさからくるゆっくりとした時間の中で、凄く充実した日々を過ごすことができました。

帰国して、たった一年しか日本を離れていないのにもかかわらず、見るものすべてが新鮮に感じ、本当に14年間もこんなに大きな町に住んでいたんだと思いました。

今、私は、言葉を通じて、何も不自由がない日本で生活できることに感謝しています。今まで当たり前だった事が感謝に変わった瞬間を体験することができました。そして、”今やなくて、未来の私は本当に後悔しないのか”と考えながら行動するようになりました。

フィジーは私に、日本にいたままだと解らないものを教えてくれました。

もう一度フィジーに戻りたいですか？と聞かれたら、私は即座にYESと答えます。



•フィジー留学を終えて•
フィジーを通して
考える未来
高等部2年 文世奈

去年のこの時期、自分がフィジーという南太平洋の小さな島国に留学していたことが未だに信じられません。2016年は自分にとって有意義であり苦労した1年でした。

1月、日本では真冬の時期に私たちは常夏のフィジーに降り立ち、それから約10ヶ月間の留学生活が始まりました。

最初の2ヶ月ぐらいは、英語の授業はもちろん、現地の生活に慣れるのに必死で、家に帰ると毎日のように自室のベッドに倒れ込んでいました。



それでも、毎日が私にとって新鮮で新しい世界を見ているようでした。早くフィジーに溶け込みたいと、自分自身努力していたのを覚えています。

ところが、そんな自分の不安と焦りとは裏腹に、フィジーの人たちは私たちにとても優しく接してくれました。慣れない人種の友達相手にも、分け隔てなく接することのできるフィジーの人たちに多大なる尊敬を感じています。

このように、フィジーでは寛容性や忍耐、生活力を鍛えられたような気がします。そして、主にホームステイ先での生活が自分自身の大きな成長点につながったと確信しています。

そこで学んだことは、『不器用でもはっきり正直に気持ちを伝える』ということです。今まで無口で意見を言い出せないでいた自分を変えたいと、初めて現地の人々に対して正直に自分の思っていることを伝えようと決心し、実際に話してみたら、相手が嬉しそうな顔で『気持ちを伝えてくれてありがとう！』と言ってくれたのがきっかけになったからです。実際、言葉で気持ちを表さないと解らない部分は、外国人に限らず人間同士で当然あることだと思います。

このような経験を踏まえて、自分自身にとってのこれから国際的な問題に関わる取り組み、それに自分の経験を必要としている人たちに出会うことができたら、とても幸運なことだと思います。

『フィジーってこんな面白い国なんやで！』って伝えることが、フィジー留学を経験した帰国生としてのこれからの使命だと感じています。

このような素晴らしい経験をさせてくれた周囲の皆さんに、感謝を忘れずに精一杯頑張っていきたいと思います。

